

施策4 スポーツ・レクリエーション活動の振興・促進

●施策の基本的な方針（施策の目的）

スポーツ・レクリエーション活動を振興し、市民ニーズに応えたスポーツ活動や健康・体力づくりが手軽に行える環境整備に努めるとともに、スポーツ団体や指導者の養成を図り、また、身近で日常的な施設から、国際的・全国的レベルの「見るスポーツ」にも対応できる施設まで、目的に応じた様々な施設整備を推進することにより、市民一人一人が生涯にわたりスポーツに親しみ、楽しむことを可能にする。

●施策の達成目標

○対象（誰、何に対して働きかけるのか）

市民

○意図（対象をどのような状態にしたいのか）

- ・自分にあったスポーツ・レクリエーションを十分楽しんでもらう。
- ・多くの市民がスポーツを見て、参加して、楽しんでもらう。

●成果指標

指 標 名	単 位	18年度	19年度	20年度	目標値 (目標年度)
週に1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合(※)	%	19.9	—	—	30 (22年度)
スポーツ・レクリエーション活動に参加した市民数(年間延数)	人	4,354,503	4,473,101	4,417,459	4,500,000 (22年度)
スポーツイベント(国際千葉駅伝)の視聴率	%	男子 11.0 女子 9.8	男女混合 10.3	男女混合 11.0	13.0 (22年度)
スポーツイベント(国際千葉駅伝)の応援者数	人	—	174,500	191,200 (目標達成)	180,000 (22年度)

※ 千葉市スポーツ振興計画（仮称）策定のための基礎調査において21年度に把握する。

●平成20年度の評価

- ・スポーツ・レクリエーション活動の振興・促進をはかるため、平成20年10月に「千葉市民ゴルフ場」がオープンし、半年で12,000人余りの市民に利用された。
- ・平成17年に整備された「アクアリンクちば」は、年間延べ約21万人の利用者があり、開設から累計で80万人を突破した。
- ・「中田スポーツセンター」等の他の体育施設でも、年間延べ94万人以上の多くの市民の利用があった。
- ・市民に身近なスポーツ施設として、学校教育に支障のない範囲で行っている「学校体育施設開放」についても、利用者が年間延べ225万人を超える事業として地域の方々に定着している。
- ・国際千葉駅伝、千葉国際クロスカントリー大会は、テレビ放映もされていることから、「見るスポーツ」として市民に定着している。特に、国際千葉駅伝の応援者は、目標値を上回った。

●今後の課題及び施策等への反映方針

- ・市民サービスの向上を図るための情報サービス体制の確立とともに、「千葉市民ゴルフ場」、「アクアリンクちば」、「中田スポーツセンター」等を含めた指定管理施設に対しては、モニタリング等による運営改善などの指導を行い、利用者へのサービス向上に努めていきたい。
- ・「学校体育施設開放」事業のほかに、民間、大学等の既存のスポーツ施設についても、市民が有効利用できないか検討を図り、市民が手軽に多様なスポーツ・レクリエーション活動ができる場の確保に努める必要がある。
- ・国際千葉駅伝、千葉国際クロスカントリー大会などの国際的・全国的な大型スポーツイベントは、テレビ放映もされ、多くの方が視聴することから、「見るスポーツ」として視聴率の向上に努めたい。特に、国際千葉駅伝は、テレビ局への働きかけにより、視聴率も目標値を上回るようにしていきたい。

●施策を構成する基本事業と評価

基本事業名 事業の概略	基本事業に対する評価
4-1 スポーツ・レクリエーション機会の創造・充実 市民の多様なニーズに対応したスポーツ教室、市民スポーツ行事等の推進・充実を図るとともに、健康・体力づくりの促進や情報サービスの提供を図る。 また、総合型地域スポーツクラブの設立を支援する。	「サンスポ千葉マリンマラソン」については、参加者各自の競技レベルに合った種目選択ができることから、参加者数は年々増加の傾向にあり、市民へのスポーツ・レクリエーション機会の創出・拡充に寄与している。 市民スポーツ大会開催として、少年球技大会や家庭バレーボール大会、市民ハイキングなど、気軽に参加できる競技を開催し、地区体育行事の振興に大きく貢献している。 スポーツ関係団体補助金として、千葉市体育協会行事、千葉市少年スポーツ連盟等の事業に補助金を交付している。各団体においては、市民の運動ニーズに対応した行事を行うなど、本市スポーツ振興において大きな成果を上げている。
4-2 「見るスポーツ」の提供 国際的、全国的レベルのスポーツイベントを開催することにより、市民スポーツ活動の普及を図る。	「国際千葉駅伝」や「千葉国際クロスカントリー大会」など、テレビ放映や会場での観戦を通じ、市民のスポーツに対する関心を高めることに大きく貢献している。 今後は、市民参加型の大型スポーツイベント及び全国的なスポーツイベントの開催・誘致に取り組んでいく。

基本事業４－１ スポーツ・レクリエーション機会の創造・充実

●基本事業の概要

- ・市民の多様なニーズに対応したスポーツ教室、市民スポーツ行事等の推進・充実を図る。
- ・健康・体力づくりの促進や情報サービスの提供を図る。
- ・総合型地域スポーツクラブの設立支援を図る。

●基本事業の達成目標

- 対象（誰、何に対して働きかけるか）
市民
- 意図（対象をどのような状態にしたいのか）
自分にあったスポーツ・レクリエーションを十分楽しんでもらう。

●成果指標

指 標 名	単 位	18年度	19年度	20年度	目標値 (目標年度)
週に1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合(※)	%	19.9	—	—	30 (22年度)
スポーツ・レクリエーションの場が充実していると感じている市民の割合(※)	%	(15年度) 33.4	—	—	40 (22年度)
スポーツ・レクリエーション活動に参加した市民数(年間延数)	人	4,354,503	4,473,101	4,417,459	4,500,000 (22年度)

※ 千葉市スポーツ振興計画（仮称）策定のための基礎調査において 21 年度に把握する。

●平成20年度の評価

- ・スポーツ・レクリエーション活動の振興・促進を図るため、平成20年10月にオープンした「千葉市民ゴルフ場」は半年で、12,000人の市民に利用されており盛況である。
- ・17年10月にオープンしたアイススケート場「アクアリンクちば」については、年間延べ21万人の利用者があり、開設から累計で80万人を突破した。
- ・18年10月にオープンした「中田スポーツセンター」は年間延べ4万人以上、他の体育施設と合計（「千葉市民ゴルフ場」、「アクアリンクちば」を除く10か所）で年間延べ94万人以上の多くの市民の利用があった。
- ・市民に身近なスポーツ施設として、学校教育に支障のない範囲で行っている「学校体育施設開放」についても、利用者が年間延べ225万人を超える事業として市民に定着している。

●今後の課題及び基本事業等への反映方針

- ・近年の余暇時間の増大、生活水準の向上、少子高齢化社会への移行等、社会生活環境の変化に伴い、市民の健康に対する関心は高く、スポーツ人口の増加とともに活動の欲求も多様化し、高度化している。
- ・また、地域においては住民同士の連携と強調を高め、よりよい地域社会を構成する上で、スポーツ活動の果たす役割は極めて大きいことから、社会体育における人的・物的条件の早期整備、充実が望まれており、市民の健康・体力づくりに大きく貢献できるよう努める必要がある。
- ・さらに「豊かな心と創造性を育む市民文化都市」を目指して、スポーツ・レクリエーション活動の普及・拡大と施設の整備を図り、市民一人ひとりが、それぞれのライフステージにあったスポーツ・レクリエーション活動を楽しく、継続的に実施できるようなスポーツ教室・スポーツ行事を開催していくとともに、市民の多様なニーズに十分対応できるような指導者の養成と確保が求められている。
- ・また、情報サービス体制を確立するとともに、民間施設を含めた既存スポーツ施設の有効活用を図り、市民が手軽に多様なスポーツ・レクリエーション活動ができる場の確保に努めなければならない。
- ・「千葉市民ゴルフ場」、「アクアリンクちば」、「中田スポーツセンター」等を含めた指定管理施設に対しては、モニタリング等による運営改善などの指導を行い、利用者へのサービス向上に努めていきたい。

・「学校体育施設開放」事業のほかに、民間、大学等の既存のスポーツ施設についても、市民が有効利用できないか検討を図り、さらに地域の方々に定着させたい。

●基本事業を構成する事務事業

事務事業名 事業の概略		貢献度	平成20年度事務事業の実施状況及び決算額
4-1-1	サンスポ千葉マリンマラソン後援事業 民間企業等が、千葉マリンスタジアムを起点とするシーサイドコースにおいて開催する市民マラソン大会であり、市民ランナーがその競技レベルに応じた種目に参加している。	—	約15,000人の参加があった。 (480千円)
4-1-2	スポーツ振興財団運営補助金 (財)千葉市スポーツ振興財団が行うスポーツ振興事業及び海洋思想普及事業等に対し補助金を交付し、市民のスポーツ活動の振興を図る。	—	財団において、スポーツイベント(参加者数は、ミニサッカー大会約5,000人、ミニバスケットボール大会約3,500人等)やスポーツ教室の開催等を実施した。 (119,225千円)
4-1-3	スポーツ施設管理事業(財団管理施設) 3年度より体育施設の管理運営を(財)千葉市スポーツ振興財団へ委託し、市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりを目指すと共に、17か所のスポーツ施設の効率的な管理運営を行ってきた。 18年度より社会体育課の体育施設10か所の指定管理者として、施設の管理運営を行っている。	B	市内10か所の体育施設(千葉ポートアリーナ、こてはし温水プール、高洲市民プール、北谷津温水プール、みつわ台体育館、武道館、宮野木スポーツセンター、古市場体育館、相楽場、中田スポーツセンター)で、合計946,610人の利用があった。 (754,759千円)
4-1-4	市民スポーツ振興事業 市民が生涯にわたって、スポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康で明るい生活が送れるよう、各種スポーツ教室をはじめ、研修会、講習会の開催や指導者の育成事業を行う。	B	80コースのスポーツ教室(参加者15,808人)を開催し、子供から大人まで広くスポーツに親しむ機会を提供している。また、千葉市に273人のスポーツコーチャーが登録しており、その資質向上のための研修会は大きな成果を上げている。 (20,518千円)
4-1-5	スポーツ大会開催事業 市民が気軽に参加できる少年球技大会、女子バレーボール大会、家族バレーボール大会、市民ハイキングなど各種スポーツ大会を開催し、スポーツ・レクリエーション活動の振興を図る。	—	夏季休業中に実施した少年球技大会は、21ブロック、235チーム2,610人の学童が参加した。 また、家庭バレーボール大会は169チーム2,109人が参加した。 (4,487千円)
4-1-6	千葉市スポーツ振興審議会事業 スポーツ振興法及び千葉市スポーツ振興審議会に関する条例に基づき設置し、学識経験者及び関係機関の代表者10人により構成されている。本市のスポーツ振興の重要事項に関して多面的に調査審議して、教育委員会に建議する。	—	本市のスポーツ振興の基本計画についての提案をはじめ、スポーツ振興の重要事項に関して多面的に調査審議した。 (351千円)
4-1-7	スポーツ関係団体補助金 千葉市体育協会、千葉市少年スポーツ連盟、千葉市社会体育振興会連絡協議会、千葉市体育指導委員連絡協議会等の事業や、レクリエーション体力づくり活動など本市のスポーツ振興を積極的に行っている諸団体に対して補助金を交付する。	—	体育協会は38競技団体、約60,000人で組織され、本市の競技スポーツの諸団体を統括し、市民大会・各種目別大会を運営している。また、千葉市少年スポーツ連盟は13種目、243団体、約9,700人の連盟員を抱え、主に学童期のスポーツ振興を担っている。その他諸団体も市民の運動ニーズに対応し、行事を持つなど本市スポーツ振興において大きな成果を上げている。 (30,756千円)

4-1-8 学校体育施設開放事業	B	本事業は、小学校120校、中学校56校の合計176校で実施しており、2, 273, 063人の利用があった。 (29, 451千円)
4-1-9 スポーツ施設管理事業(スポーツ広場等)	—	スポーツ広場(2か所)で31, 984人、運動広場(20か所)で170, 065人の利用があった。 (10, 219千円)
4-1-10 スポーツ施設管理事業(千葉公園球技場他用地借上料)	—	本事業は、137, 372人の利用があった。 (138, 523千円)
4-1-11 アクアリンクちば管理事業	—	210,133 人の利用があった。 (—)
4-1-12 市民ゴルフ場管理事業	—	10 月から3 月で、12,063 人の利用があった。 (—)

●千葉市教育委員会事業評価委員の所見

継続して、市民スポーツ振興のためのスポーツイベントや大会、教室の開催、スポーツの場の提供など必要な施策が実施されている。スポーツ・レクリエーション活動に参加した市民数については20年度は若干減少が見られるが、原因の分析等を行い、目標値の達成に向けて一層の施策推進を期待する。

基本事業の達成目標に向けて、概ね目標が達成されている。

基本事業４－２ 「見るスポーツ」の提供

●基本事業の概要

- ・国際的、全国的レベルのスポーツイベントを開催することにより、市民のスポーツ活動の普及を図る。

●基本事業の達成目標

- 対象（誰、何に対して働きかけるか）
市民
- 意図（対象をどのような状態にしたいのか）
多くの市民がスポーツを見て、参加して、楽しんでもらう。

●成果指標

指 標 名	単 位	18年度	19年度	20年度	目標値 (目標年度)
スポーツイベント(国際千葉駅伝)の視聴率	%	男子 11.0 女子 9.8	男女混合 10.3	男女混合 11.0	13.0 (22年度)
スポーツイベント(国際千葉駅伝)の応援者数	人	—	174,500	191,200 (目標達成)	180,000 (22年度)

●平成20年度の評価

- ・「国際千葉駅伝」、「千葉国際クロスカントリー大会」は、千葉県及び県教育委員会との共催事業として実施し、テレビ放映もされている。会場及び沿道において、多くの市民が世界的なトップランナーを観戦することにより、「見るスポーツ」として定着している。特に、国際千葉駅伝の応援者は、目標値を上回った。

●今後の課題及び基本事業等への反映方針

- ・社会環境の変化や多様化する市民ニーズへの対応、生涯学習を展望したスポーツ振興を図るため、市民参加型のスポーツイベント及び国際的・全国的なスポーツイベントの開催・誘致に今後も取り組んでいく。
- ・国際千葉駅伝、千葉国際クロスカントリー大会などの国際的・全国的な大型スポーツイベントは、テレビ放映もされ、多くの方が視聴することから、「見るスポーツ」として視聴率の向上に努めたい。特に、国際千葉駅伝は、テレビ局への働きかけにより、視聴率も目標値を上回るようにしていきたい。

●基本事業を構成する事務事業

事務事業名 事業の概略	貢献度	平成20年度事務事業の実施状況及び決算額
4-2-1 千葉市長杯争奪社会人野球大会事業 千葉マリンスタジアムにおいて、社会人野球の関東選抜リーグ上位チーム等による関東選抜リーグ戦決勝トーナメントを開催するとともに、サブイベントとして、少年野球教室や指導者講習会を実施する。	—	関東選抜リーグ戦決勝トーナメントは、8チームが参加し、観戦者数が約1,000人であった。 少年野球教室は参加者数が約350人で、指導者講習会は参加者数が約100人であった。 (6,054千円)
4-2-2 千葉国際クロスカントリー大会事業 昭和の森において、国内外からのトップランナー等によるクロスカントリー大会を開催する。 主催は日本陸上競技連盟、後援は千葉県・千葉市・千葉県教育委員会・千葉市教育委員会ほか。	—	昭和の森を会場に、約2,000人の選手が参加し一般男子12kmなど8種目を行った。 (1,267千円)

4-2-3 国際千葉駅伝事業		
千葉市の中心市街地や幕張新都心等を巡る市内周回コースにおいて、世界各国の有力招待選手により男女混合国別対抗駅伝を開催する。 主催は日本陸上競技連盟・千葉県・千葉市・千葉県教育委員会・千葉市教育委員会、国際陸上競技協会の公認大会である。	B	市内周回コースにて、11か国 13 チームが参加し、男女混合駅伝を行った。 応援者数は 191,200 人、テレビ視聴率は 11.0%であった。 (20, 018千円)

●千葉市教育委員会事業評価委員の所見

「見るスポーツ」について、厳しい予算状況の中で効率的に事業が行われ、成果を上げている。
国際千葉駅伝の応援者数が 22 年度の目標値を既に上回るなど、基本事業の達成目標に向けて、十分に目標が達成されている。市民のスポーツ振興につながる国際的・全国的なスポーツ・イベントの継続充実を期待する。